

【協議】 今後の事業展開について

～ アフターコロナ・ウィズコロナ時代における講座のあり方 ～

1. 読売新聞オンラインの記事から

新型コロナウイルスの世界的流行は、社会を大きく変えた。その影響は、暮らし、仕事、教育、娯楽といった人の営みの隅々にまで及び、少子化を一気に加速させた。対面や移動が制限されて社会経済活動が停滞する一方、オンライン化が進み、新たな交流やビジネスの形も生まれた。コロナ禍を乗り越えようとする今、揺り戻しの動きも見られる。

(国内初の感染者確認から5月の5類移行までの3年4か月を振り返り)

2. 新型コロナウイルスの感染拡大による当館事業への影響

(1) 施設管理面

- ・臨時休館、活動自粛要請、利用制限、感染防止対策優先
- ・環境整備(空調設備・デジタル設備) ⇒ 現在は制限なし(換気推奨、定員注意)

(2) 事業運営面

- ・感染拡大状況による事業の中止や延期 ⇒ R5年度は中止予定なし
- ・事業内容の見直し(内容・回数・定員) ⇒ 短期が多い。コロナ禍なりの課題設定
- ・現役世代の講座離れ(青年対象事業の中止) ⇒ 中止した事業の復活は困難
- ・デジタル技術活用支援 ⇒ 重点的に実施中(特にシニア層向け)

3. 今後の事業展開の方向性について

《主なキーワード》

- ①地域課題 ②関係機関との連携 ③人材育成(講師) ④地域づくり ⑤郷土愛
- ⑥SDGs ⑦交流の場 ⑧生きがいづくり ⑨学習成果 ⑩歴史講座 ⑪ニーズ
- ⑫リスキリング ⑬デジタル活用 ⑭障がい者参加 ⑮高齢者対象 ⑯青年教育
- ⑰家庭教育(親子) ⑱男女共同参画 ⑲情報発信 ⑳運営方法 ㉑民間活用